

森吉山麓高原自然再生全体構想

平成18年3月31日

森吉山麓高原自然再生協議会

目次

はじめに

1	森吉山麓高原の自然再生に向けて	1
2	森吉山域の概況と自然再生の対象となる区域	3
3	事業対象地及びその周辺の概況	6
4	事業対象地の課題	14
5	自然再生全体構想	15
	（1）森林再生の基本方針	
	（2）目標	
	（3）事業実施に当たっての配慮事項	
6	役割分担	19
7	森吉山麓高原自然再生協議会委員等名簿	20
8	森吉山麓高原自然再生協議会設置要綱	21
9	参考文献	23

はじめに

過去に、人為によって失われた自然環境を取り戻すことを目的とした「自然再生法（平成14年法律第116号）」にのっとり、秋田県では本書の7項の委員会等名簿にある様々な関係者・参加者による「森吉山麓高原自然再生協議会」が平成17年7月に発足した。この自然再生の対象となる区域は県有地であり、実施者は秋田県である。

かつては豊かなブナ林に覆われ、ツキノワグマ、カモシカ、クマゲラ、クマタカ等の多様な生物が数多く生息していた森吉山麓高原は、昭和50年頃からおよそ500haもの広大なブナ林が伐採され、牧場造成工事が実施された。現在では牧場の需要は減少し、草原の中に二次林が点在する状況になっている。

この区域の以前の豊かな自然環境を取り戻すべく、当自然再生協議会は数回の会合を持って検討を重ね、ここに「森吉山麓高原自然再生全体構想」をとりまとめた。この全体構想のもとに、この地域の特性を生かした的確な「森吉山麓高原自然再生事業実施計画」が策定されることを期待する。

1 森吉山麓高原の自然再生に向けて

(1) ブナ林の多様な価値を取り戻す

ブナ・ミズナラを主体とした温帯落葉広葉樹林は、はるか縄文時代から我々東北に住む人々に、様々な恩恵を与えてきた森である。むしろ縄文時代においては、我が国の中でも最も豊かな暮らしができた地域であるといわれている。

森吉山麓高原を源とする小又川の上流部にも、旧様田集落など縄文時代の遺跡が数多く発掘されている。古代からこの森吉山に多くの人々が長年にわたり生活し得たのは、日々の糧となる豊かな森があったからこそである。

当然ながら現代においても、ブナ林は、人々の暮らしと伝統文化の継承の場として再認識する必要がある。

また、我々人間が自然について未だ良くわからない現状では、自然の森林が本来持つ、多様な動植物＝生物の多様性を一定レベル以上に保つ努力が必要である。このことは生物種に限定したことなく、本来人間が生存していくうえで欠かすことの出来ない要件である。

ブナを主体とした温帯落葉広葉樹林が広域にわたって健全に保持されていることは、我々の暮らしはもとより、あらゆる生物にとって必要な水の恵みを与えてくれるということ忘れてはならない。

ブナはまさにこれらを生み出す「母なる木」としてのシンボルである。

(2) クマゲラの棲める森を作る

森吉山麓は本州で確認されている数少ないクマゲラの繁殖地の一つである。本種は生息・繁殖するために広大な広葉樹林を必要とし、そこにはブナ、ミズナラ、ヤチダモ、サワグルミなどの様々な樹木が生い茂り、多くの動物が生息している。クマゲラが森吉山に生息することは、森吉山の森林の豊かさを示すことでもある。

しかし、事業対象地帯での森林の伐採が行われたことなどにより、クマゲラの繁殖活動が

不規則化するなど、クマゲラを取り巻く森林環境は面積的に必ずしも十分ではないともいえる。クマゲラの生息が脅かされているということは、森吉の森を取り巻く環境自体が変わってきたことを示している。

この事業はクマゲラを事業の象徴として、クマゲラが棲める森を作っていこうというものである。加えて、ノロ川地区は、水源涵養機能を高度に発揮しやすい地形であるため、クマゲラの棲む森は水資源を涵養する森として下流域の住民に恵みの水をもたらす森でもあるという考えが込められている。

(3) たえず森づくりを検証し、一步一步着実に進める森作りを行う

豪雪地帯で人工改変地という土壌条件の悪い環境で、ブナを主体とした森を再生していくことは容易でない。しかも、広葉樹林の再生方法自体は、針葉樹の更新技術に比べてあまり確立されたものではない。

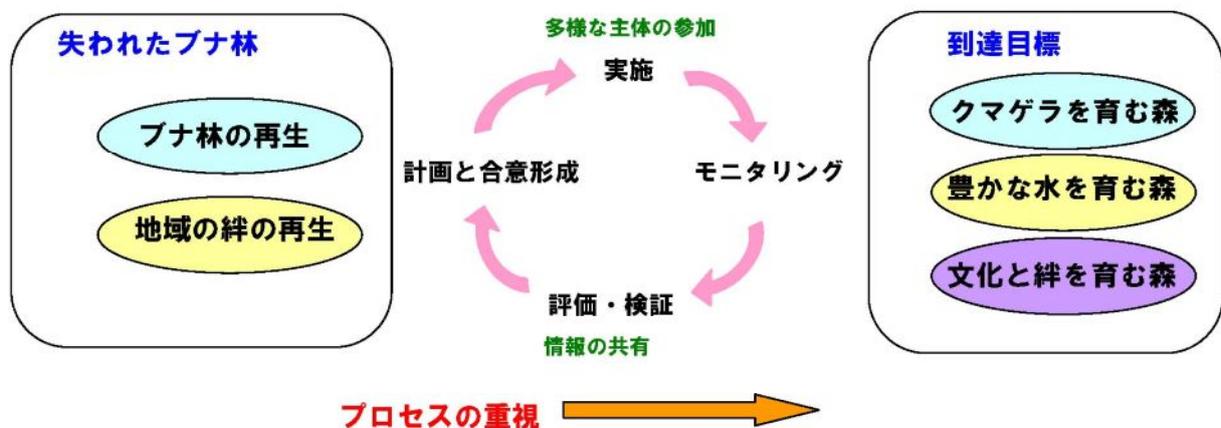
このため、クマゲラの棲める森づくりに当たっては、多様な人々の参画のもと合意形成を図り、たえず森づくりをモニタリングにより検証しながら情報を共有し、着実に進めていくことが不可欠である。

(4) 多様な主体の参加と様々な人々の交流によるプロセスを大事にした森づくりを進める

森の再生は長年月を必要とする。故に、この森づくりを継続的に推進するためには、それを支えていく地域が生き生きとしているとともに、森吉山の自然を次世代に継承していく地域づくり、文化づくりというプロセスにより築きあげられていくことで始めて可能となると考えられる。

このためには、この森づくりを通じて、地域住民と県内外の様々な人々との交流、さらには自然学習や自然体験を通じて自然に対する理解を深めていくというプロセスを大事にした森づくりを進める必要がある。

森吉山麓高原自然再生事業のイメージ



2 森吉山城の概況と自然再生の対象となる地域

(1) 森吉山城の概要

森吉山城は北緯 39 度、東経 140 度の秋田県の中央部に位置する。山頂へは森吉側からも阿仁側からもアプローチでき、山頂部付近ではオオシラビソの針葉樹林や雪田植生が見られ、「花の百名山」に数えられるだけあって四季折々の美しさを見せてくれる。県中央部に位置する単独峰であるため、主峰の森吉山頂からは八甲田山、八幡平、秋田駒ヶ岳、男鹿半島、鳥海山などの一大パノラマの眺望を楽しむことができる。標高 1,000m 付近から山麓部にかけては広大なブナ林に覆われ、新緑と紅葉を楽しませてくれる。山頂の北東側にはブナ林をぬって緩やかな U 字谷の中をノロ川や赤水沢の緩やかな流れが走っており、桃洞の滝や兎滝見学のために多くの人々が訪れている。ノロ川の流れは北上するにつれて急峻な V 字型の深い谷を刻み小又峡となり、三階の滝をはじめとする大小の瀑布や甌穴が連なり、やがて太平湖に注ぐ。山頂の南東側の榎森周辺には桃洞・佐渡のスギ原生林があり、榎森からの流れは立又溪谷となり、幸兵衛滝など溪谷美が目を楽しませてくれる。

森吉山城は山頂から山麓に至るまで、登山、溪谷探勝、キャンプなどを通じて自然に親しむことができるフィールドである。

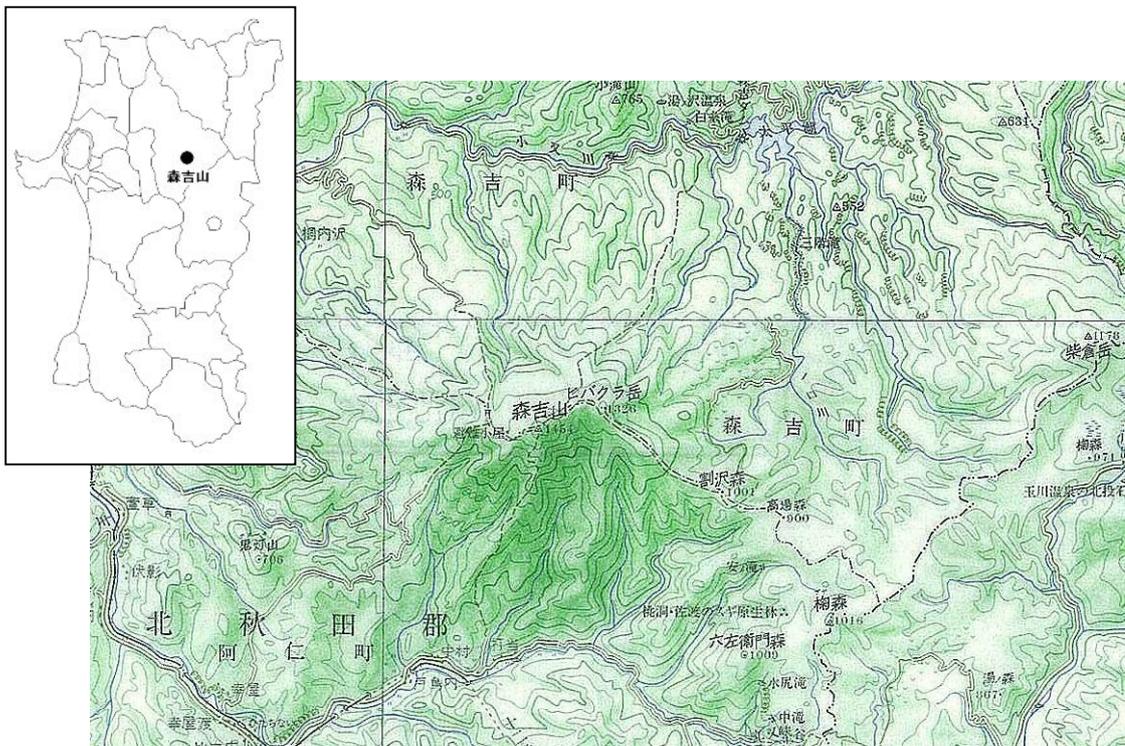


図 1 - 1 森吉山位置図